

水田川流域の雨水流出抑制対策について

近年、これまでの想定を超える局地的な豪雨が多発する一方で、都市化の進展に伴い雨水の浸透機能や保水機能は低下しており、雨水の流出量が短期間に増大し、浸水による被害が拡大する傾向にあります。このことから、兵庫県では「総合治水条例」を策定し、従来の河川や下水道対策に加え、流域対策や減災対策を含めた総合治水対策を推進しています。

一級河川水田川の流域においても、河川の氾濫により繰り返し浸水被害を受けてきたことから、河川管理者である兵庫県においては、水田川排水機場（雨水ポンプ場）整備（平成13年度完成）及び水田川の河川整備（平成4年度～）を実施しています。

また、加古川市においては、ため池切欠き整備、校庭貯留整備、及び調整池整備を実施し、大雨時の雨水の流出を抑制することで、下流域の浸水被害の軽減を図っています。

加古川市の雨水流出抑制対策

① 下ノ池切欠き整備（令和3年度整備）

- ・洪水吐に水位を調整するための切欠き（幅 1.0m×高さ 0.3m）を設け、大雨の際に事前放流により水位を低下させておき、上流からの流入水を貯留することにより、下流の水路や河川等への流出を抑制しています。
- ・貯留面積：90,000 m² 貯留量：27,000m³

② 平岡中学校校庭貯留（雨水貯留施設）整備（平成28年度整備）

- ・校庭周囲に壁（高さ 0.1～0.25m）を設け、大雨の際に校庭に降った雨水を一時的に貯留し、排水量を調整することで、下流の水路や河川等への流出を抑制しています。
- ・貯留面積：17,000 m² 貯留量： 900m³

③ 源太池調整池整備（令和4・5年度整備）

- ・既存のため池である源太池に調整池の機能を設け、大雨の際に上流からの流入水を一時的に貯留し、排水量を調整することで、下流の水路や河川等への流出を抑制しています。
- ・貯留面積： 4,300 m² 貯留量：10,000m³